

SORA

web magazine 2016.dec. vol.80



ISLAND SAFARI ROYAL MALDIVES

アイランドサファリ・ロイヤル 赤道を超える旅
年に一度のスペシャルトリップ

PHOTO & TEXT : KYU FURUMI

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2016
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



最南端の島々に広がっているのは究極のサンゴ礁

美しいサンゴの景観を楽しむのが、赤道越えトリップの醍醐味の一つと言える。赤道付近のガーフ環礁やアッドゥ環礁は、訪れるダイバーも多くないせいか、リーフトップのサンゴの群生は比類無き美しさだ。様々なサンゴが折り重なるように群生し、何度も何度も破壊と再生を繰り返し、繁茂してきたのであろう。サンゴと言うと繊細なイメージが強くなるかもしれないが、ここは自然の力強さを感じさせてくれる、力強い景観なのだ。





ビッグワンとの邂逅

ガーフ環礁・フォームラ環礁・アッドゥ環礁では、漆黒のブルーウォーターを流しながら、大物海洋生物との遭遇を待つダイビングを行なう。過去の例を上げるとキリは無いのかもしれないが、カジキをはじめハンマーヘッドシャーク、そしてタイガーシャークなどが現れることもあるという。出るか出ないかは運次第。ギャンブルのようなダイビングに身を投じてみるのも悪くない。そして勝利をつかみ取りたいものだ。





時が止まったような光景

ガーフ環礁で潜っていたある日のこと。ダイビングの終盤にリーフトップまで上がり、浮上の準備をはじめた頃だった。ゆらゆらと水面から降り注ぐ光芒がきれいだなあとボンヤリ眺めていたら、僕の目の前を一匹の小さなタイマイが気持ち良さそうに、ゆっくりと泳いでいた。気持ちの良い光景に写真も撮らずに見とれていると、その後ろを一匹のアカククリが追走しはじめた。タイマイも逃げる訳でもなく、アカククリも慌てて追う訳でもない。何て気持ちよく泳ぐのだろう。この2匹はとても良い関係なのだろう。彼らを見つめながらいろんなことを想像していた。海の中でもそんな生き物同士の関わりを垣間みることができると最高に嬉しい。





アイランドサファリ・ロイヤル号で巡る赤道越えの旅

毎年乾季シーズンの恒例となっているアイランドサファリ・ロイヤルの赤道越えトリップ。ツアープランとしては、通常のトリップ通りマーレで乗船し、各環礁で潜りながら徐々に南下していく行程。ガーフ環礁から乗り込み赤道を越え最南端のアッドゥ環礁を目指す行程。逆にアッドゥ環礁から北上して行く行程など、いくつかのプランからチョイスすることができる。未知なる大物との遭遇に期待は膨らむばかりだが、これは自然環境下においてのことなので、100%という確率はあり得ない。しかしその可能性はかなり高い。とだけは間違いなく言えるだろう。

アイランドサファリは、モルディブのベテランのガイド的場さんと、若手の板垣さんの日本人ガイドが2名乗船している。その他のモルディブ人ガイドもキャリアが長く、誰もが安心して潜ることができるだろう。生活の拠点となる船内は木調の温かみのある造りで、各スペースも広く快適だ。毎度の食事も美味しいものばかり。そして各トリップの最終日の夜には、モルディブの伝統的な家庭料理を食す、モルディビアン・ディナーが開催されるので、こちらも楽しみの一つに加えたい。

